

第46回(平成30年度)佐々木賞

紙パルプ技術協会

紙パルプ技術協会は先ごろ、紙パルプ会館で平成30年度「佐々木賞」の贈呈式を行った。受賞した技術は「繊維回収装置「バーチカルZ」の開発および最新技術」(株)大善・井出丈史社長)と「高圧水型カンバス洗浄装置スーパークリーナーWET(プロワー吸引型)」(相川鉄工(株)・梶山宗助社長)。受賞理由をそれぞれ紹介する。

大善

繊維回収装置「バーチカルZ」の開発および最新技術

製紙業界における古紙利用率は増加し、ますます古紙処理技術の高度化が必要となっている。脱墨古紙パルプの場合、洗浄設備により品質上かなりの差異があることが確認されている。同装置は遠心力による強制脱水と繊維同士の摩擦を生み出す攪拌羽根の揉み洗い効果、シャフトに注入される水での置換洗浄、さらにスクリーニングといっ

た四つの作用を効果的に行える。縦型なため省スペースな上、従来の横型洗浄機に比べ濾過面積を最大限に活用できる。低濃度から高濃度まで幅広く処理でき、洗浄水も大幅に削減する。白水や



排水からの原料回収にも活用され、内部シャフトやドラムの回転調整でパルプ洗浄と繊維回収のコントロールを可能にした。機器内の洗浄作業がやり易いなどのメンテナンス性も追求している。これまで国内の納入実績は一〇四台に上り、製紙業界への貢献が高く評価された。

佐々木賞は「丸茶 佐々木商店」の創業者である佐々木時造氏(明治十二年(昭和四十七年)の遺言を元に創設された。明治から昭和にかけて紙パルプ業界とともに活躍してきた氏は、資産の一部を紙パルプ技術協会に寄付する旨の遺言を残して九四歳の天寿を全うした。協会は業者から

の寄付は受け付けない方針だったが、氏の戦前戦後の永年にわたる紙パルプ業界への貢献度を評価し、特例として受け、これを基金に「佐々木賞」を設けた。昭和四十七年度を第一回として技術開発、研究開発で顕著な成績を収め、紙パルプ業界に貢献した個人または企業を顕彰している。